大学･高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和7年度	学校コード	G129110109348	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）
高等専門学校名	奈良工業高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	専門にもAIにも強い人材を輩出する奈良高専モデルによる高度情報人材育成
学校種	高専	都道府県	奈良		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和7年度		事前相談申請に向けて、提出書類の作成を進めた。	令和7年度自己評価 【３】計画を十分に実施している。
	①5月 現在のカリキュラムでの数理･データサイエンス･ AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）への申請 ②7月 新学科カリキュラム等完成 ③3月 AI･データサイエンス演習室，システムデザイン演習室の整備の方針決定	①現行のカリキュラムにおいて，数理･データサイエンス･AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）への申請を令和７年４月２３日に行い，令和７年８月２６日に採択された. ②令和９年度学科改組後の新学科（情報科学科，システムデザイン工学科，物質創成化学科）のカリキュラム編成を行った. ③令和７年５月２日に高専機構本部と，事業の内容，建物規模や整備スケジュール等の打合せを行った．打合せの内容を踏まえて，多様な実験･実習，演習に対応可能な教室（AI･データサイエンス演習室およびシステムデザイン演習室）を整備する方針を決定した.	
令和8年度	4月 新学科（以下）設置に係る事前相談 システムデザイン工学科（120名） 情報科学科（40名） 物質創成化学科（40名） ①5月 新学科での数理･データサイエンス･AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）への申請 ②2月 高度情報共通教育のための情報共通演習用設備整備 ③2月 情報科学科 高度情報実験演習兼用設備導入		令和8年度自己評価 リストから選択してください。
令和9年度			令和9年度自己評価 リストから選択してください。
	①4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任教授1名，情報科学科 データサイエンスコース ソフトウェア分野担当） ②4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任助教3名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ネットワーク分野担当，(2)情報科学科 データサイエンスコース 人工知能分野担当，(3)物質創成化学科 情報教育担当） ③4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任助教1名採用，システムデザイン工学科 情報教育担当） ④4月 AI･DS教育のための教育体制整備 （専任特命教授1名採用，情報科学科 AI･DS教育科目及び高度情報人材育成科目の教材開発･授業支援担当） ⑤3月 情報科学科のディープラーニング実習システム構築		
令和10年度			令和10年度自己評価 リストから選択してください。
	①4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任教授5名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース 音声認識分野担当，(2)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ハードウェア分野担当，(3)情報科学科データサイエンスコース 画像認識分野担当，(4)情報科学科データサイエンスコース データサイエンス分野担当，(5)情報科学科 データサイエンスコース ソフトウェア分野担当） ②4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任助教4名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ネットワーク分野担当，(2)情報科学科 データサイエンスコース 人工知能分野担当，(3)システムデザイン工学科 情報教育担当，(4)物質創成化学科情報教育担当） ③4月 AI･DS教育のための教育体制整備 （専任特命教授1名，情報科学科 AI･DS教育科目及び高度情報人材育成科目の教材開発･授業支援担当） ④8月 AI･データサイエンス演習室，システムデザイン演習室，高度情報演習室等の設備整備のための改修工事の実施 ⑤12月 AI･データサイエンス演習室，システムデザイン演習室，高度情報演習室等の設備整備		
令和11年度			令和11年度自己評価 リストから選択してください。
	①4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任教授5名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース 音声認識分野担当，(2)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ハードウェア分野担当，(3)情報科学科 データサイエンスコース 画像認識分野担当，(4)情報科学科 データサイエンスコース データサイエンス分野担当，(5)情報科学科 データサイエンスコース ソフトウェア分野担当） ②4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任助教4名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ネットワーク分野担当，(2)情報科学科 データサイエンスコース 人工知能分野担当，(3)システムデザイン工学科 情報教育担当，(4)物質創成化学科 情報教育担当） ③4月 AI･DS教育のための教育体制整備 （専任特命教授1名，情報科学科 AI･DS教育科目及び高度情報人材育成科目の教材開発･授業支援担当）		
令和12年度			令和12年度自己評価 リストから選択してください。
	①4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任教授5名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース 音声認識分野担当，(2)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ハードウェア分野担当，(3)情報科学科 データサイエンスコース 画像認識分野担当，(4)情報科学科 データサイエンスコース データサイエンス分野担当，(5)情報科学科 データサイエンスコース ソフトウェア分野担当） ②4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任助教4名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ネットワーク分野担当，(2)情報科学科 データサイエンスコース 人工知能分野担当，(3)システムデザイン工学科 情報教育担当，(4)物質創成化学科 情報教育担当） ③4月 AI･DS教育のための教育体制整備 （専任特命教授1名，情報科学科 AI･DS教育科目及び高度情報人材育成科目の教材開発･授業支援担当） ④4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任准教授2名採用，(1)情報科学科 データサイエンスコース データサイエンス分野担当，(2)システムデザイン工学科 高度情報専門科目担当）		
令和13年度			令和13年度自己評価 リストから選択してください。
	①4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任教授5名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース 音声認識分野担当，(2)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ハードウェア分野担当，(3)情報科学科 データサイエンスコース 画像認識分野担当，(4)情報科学科 データサイエンスコース データサイエンス分野担当，(5)情報科学科 データサイエンスコース ソフトウェア分野担当） ②4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任助教4名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ネットワーク分野担当，(2)情報科学科 データサイエンスコース 人工知能分野担当，(3)システムデザイン工学科 情報教育担当，(4)物質創成化学科 情報教育担当） ③4月 AI･DS教育のための教育体制整備 （専任特命教授1名，情報科学科 AI･DS教育科目及び高度情報人材育成科目の教材開発･授業支援担当） ④4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任准教授2名，(1)物質創成化学科 マテリアルインフォマティクス担当，(2)物質創成化学科 バイオインフォマティクスI担当， (3)物質創成化学科 バイオインフォマティクスII担当）		
令和14年度			令和14年度自己評価 リストから選択してください。
	①4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任教授5名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース 音声認識分野担当，(2)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ハードウェア分野担当，(3)情報科学科 データサイエンスコース 画像認識分野担当，(4)情報科学科 データサイエンスコース データサイエンス分野担当，(5)情報科学科 データサイエンスコース ソフトウェア分野担当） ②4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任助教4名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ネットワーク分野担当，(2)情報科学科 データサイエンスコース 人工知能分野担当，(3)システムデザイン工学科 情報教育担当，(4)物質創成化学科 情報教育担当） ③4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任准教授2名，(1)情報科学科 データサイエンスコース データサイエンス分野担当，(2)システムデザイン工学科 高度情報 専門科目担当） ④4月 高度情報教育のための教育体制整備 （非常勤講師3名，(1)物質創成化学科 マテリアルインフォマティクス担当，(2)物質創成化学科 バイオインフォマティクスI担当， (3)物質創成化学科 バイオインフォマティクスII担当） ⑤2月 情報科学科 ディープラーニング実習システム更新		
令和15年度			令和15年度自己評価 リストから選択してください。
	①4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任教授5名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース 音声認識分野担当，(2)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ハードウェア分野担当，(3)情報科学科 データサイエンスコース 画像認識分野担当，(4)情報科学科 データサイエンスコース データサイエンス分野担当，(5)情報科学科 データサイエンスコース ソフトウェア分野担当） ②4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任助教4名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ネットワーク分野担当，(2)情報科学科 データサイエンスコース 人工知能分野担当，(3)システムデザイン工学科 情報教育担当，(4)物質創成化学科 情報教育担当） ③4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任准教授2名，(1)情報科学科 データサイエンスコース データサイエンス分野担当，(2)システムデザイン工学科 高度情報 専門科目担当） ④4月 高度情報教育のための教育体制整備 （非常勤講師3名，(1)物質創成化学科 マテリアルインフォマティクス担当，(2)物質創成化学科 バイオインフォマティクスI担当， (3)物質創成化学科 バイオインフォマティクスII担当） ⑤2月 高度情報共通教育のための情報共通演習用設備更新 ⑥2月 情報科学科 高度情報実験･演習兼用設備更新		
令和16年度			令和16年度自己評価 リストから選択してください。
	①4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任教授5名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース 音声認識分野担当，(2)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ハードウェア分野担当，(3)情報科学科 データサイエンスコース 画像認識分野担当，(4)情報科学科 データサイエンスコース データサイエンス分野担当，(5)情報科学科 データサイエンスコース ソフトウェア分野担当） ②4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任助教4名，(1)情報科学科 コンピュータサイエンスコース ネットワーク分野担当，(2)情報科学科 データサイエンスコース 人工知能分野担当，(3)システムデザイン工学科 情報教育担当，(4)物質創成化学科 情報教育担当） ③4月 高度情報教育のための教育体制整備 （専任准教授2名，(1)情報科学科 データサイエンスコース データサイエンス分野担当，(2)システムデザイン工学科 高度情報 専門科目担当） ④4月 高度情報教育のための教育体制整備 （非常勤講師3名，(1)物質創成化学科 マテリアルインフォマティクス担当，(2)物質創成化学科 バイオインフォマティクスI担当， (3)物質創成化学科 バイオインフォマティクスII担当）		

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	奈良工業高等専門学校

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ）「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。

⑧ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。

⑨ 計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑩ 国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑪ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑫ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。

上記項目の①～⑪の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
すべての項目が要件を満たしている											

①～⑪の要件を満たしていない又は対象でない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑫については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑫文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。	認定を受けている

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本校は奈良県、大和郡山市、奈良市等と連携協定を締結しているほか、奈良高専地域イノベーションコンソーシアムに多くの企業・団体に加入いただいており、これらの企業・団体と連携した取り組みを実施している。例えば、地域創生についての授業を通じて奈良県を活性化させるアイデアを提案し、県内の様々なコンテストに学生が挑戦したり、奈良県と連携して、県内の教育機関に在籍又は県内在住の中学生・高校生・高専生（1～3年生）を対象とした「モノづくりスタートアップ塾」を開催した実績もある。支援期間中においても、自治体や企業・団体との連携を強化し、デジタルファブリケーション技術を学ぶ実験・実習科目では、高度な専門教育と実際の技術を結びつけ、デジタル技術を実社会に応用することができる技術者の育成を推進し、PBL科目では、高度な情報技術に基づき地域の課題解決と社会実装を推進する。	・奈良高専地域イノベーションコンソーシアムの加入状況は、令和6年度末の66機関（57社・9団体）から令和7年度末には74機関（65社・9団体）に増加しており、地域の企業・団体との連携が一層推進されている。 ・地域創生の取組の一つとして、学生自らの自由な発想を起点に、地域・社会課題の解決や新たな価値創出を目指す実践型プロジェクト「学生アイデアチャレンジ」を実施しており、試作検証・地域創生・社会実装の要素を1つ以上含む活動を対象に、令和7年度は過去最多の9プロジェクトを採択した。7月に活動を開始し11月に中間報告、2月に成果報告を実施した。2月の成果報告会には9機関13名の来校があり、各プロジェクトに対して助言等もいただくことができた。各プロジェクトはコンテスト・展示会や学会にも参加するなど成果を発表した。中でも、本校近隣にある矢田寺（北僧房）の協力の下開発した「おみく地蔵」プロジェクトについては、成果作品を同寺に展示・実演することとなり、メディア（NHK、奈良テレビ、朝日新聞、毎日新聞、奈良新聞）でも取り上げらることとなった。	・「奈良高専地域イノベーションコンソーシアム」会員企業等からの学生・教員との交流ニーズの高まりに対して、現行の学内組織だけではニーズに対応しきれない等の課題を抱えており、外郭化を含めた組織の在り方の見直しについて検討を開始した。

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本校では、奈良県大和郡山市及び生駒市と学市連携協定を締結しており、児童・生徒の理科離れが進む現状の改善を図り、創造性や科学的な考え方を育むことを目的に、小中学校への出前授業や科学教室を実施している。その他にも小中学生対象の公開講座として今年度は「デジタルファブリケーション入門」、「楽しく作るライン追跡ロボット」、「ビジュアルプログラミングでプログラムを学ぼう」、「とっても楽しいIoT教室」等の情報技術に関する講座を多数開講し、高評価を得ている。また、昨年度より、高専STEAM教育拠点校として「デジタルART教育を核とした異分野融合による分野横断型能力育成の実践と展開」に取り組んでいる。この取り組みでは、早期STEAM教育実践校である鈴鹿高専との情報交換を実施している。支援期間中も、情報技術を含めた出前授業、科学教室、公開講座の実施及び早期STEAM教育を実践することで理系人材の発掘や確保に努める。現在、高校と連携した取り組みは行っていないが、県のスタートアップやグローバル企画で、県内の高校生と合同で取り組む取組が予定されているので、高度情報人材に関する課題を積極的に提案して、県内高校生と連携して取り組む機会を増やせるようにする。	・連携協定に基づき、大和郡山市に対しては出前授業を7校（のべ13回、344名）、科学教室を3件（49名）実施し、生駒市に対しては出前授業を3校（のべ5回、141名）、科学教室を1件（15名）実施した。 ・また、本校にて小中学生を対象とした公開講座を全6講座開催した。「デジタル」や「プログラミング」をテーマとした講座は、定員に対して約2倍の応募があり、本校において特に人気の高い講座となっている。受講者の中には高専に対して関心を持つ者も少なくなく、複数の講座を申し込むケースが多い。これまでは主に夏休み期間に開催してきたが、今後は学習機会の提供を拡大することを前提に、来年度以降は年間を通じて本校の魅力を発信していくことを検討している。 ・その他、橿原サイエンスフェスティバル（橿原市教育委員会主催）において、未就学児から中学生を対象としたイベントを開催した。昨年度、参加者の年齢層把握が十分でなく必ずしも好評とはならなかった点を踏まえ、今年度は、受講者の年齢層に応じて学生補助員の配置を工夫するとともに、実施内容に必要な材料を事前にセットするなどの改善を行った結果、約100名の来場者から好評を得ることができた。 ・また、きのくにロボットフェスティバル・全日本小中学生ロボット選手権（和歌山県、和歌山県教育委員会、きのくにロボットフェスティバル実行委員会等主催）の地区大会を本校で毎年実施しており、近隣地域の小中学校等へチラシ配付およびHPにおいて募集している。各個人のアイデアを基に一から製作するため初心者にはハードルが高く、受講者は定員の6割程度に留まるが、他府県からもロボット製作に興味を持つ児童・生徒の応募があり、全国大会において入賞する児童・生徒も輩出している。また、毎年継続して参加する児童・生徒も一定数おり、近年では、本事業の受講者が本校に入学する事例も見られる。	・「出前授業」について、対応する教員の属人化が進み、その結果実施テーマが固定化される傾向にある。一部教員への業務負担の集中を解消し、継続的に小中学校向けに出前授業等で地域貢献ができる体制を構築するため、広報室を中心に対応を検討している。

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生の確保に向けた取り組みとして、本校では2019年から入試に「女性エンジニアリーダー養成枠」を設置し、優秀な女子学生をリクルートする推薦枠を設置している。また、ダイバーシティ・インクルージョンに対応するため、多様な社会ニーズに柔軟に対応できるエンジニアを養成する正課外の教育プログラム「しなやかエンジニア教育プログラム」を実施し、「確かな工学の知識・技術に加え、社会・生活と技術をつなぎ、新たに価値を創造するための感性とそれを形にする表現力」及び「ダイバーシティな環境におけるリーダーシップ」を有する人材を育成している支援期間中もこれまでと同様の取り組みを行うとともに、「しなやか」などの女子学生活動もアピールして、優秀な女子学生をリクルートする活動を推進する。また、奈良国立大学機構における「地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援事業」のリカレント教育プログラムに参画しており、社会人へのデジタルものづくり等の講座を通じて社会人学生確保の活動につなげる。さらに、本校のグローバル教育センターでは、国内外の協働機関と連携しつつ、多彩な国際交流プログラムを提供しており、海外からの編入生や短期留学生の受け入れを行ったりしている。コロナ禍が開けて、昨年から新規に3校とのMOU締結を行うなど、提携大学やポリテックも拡大中であり、日本人学生と外国人留学生が日常的に交流できる国際寮を拡充する計画がある。留学生の確保に向けて、準備が進行中である。	女子学生確保に向けた取組 ・令和8年度入試においても女性エンジニアリーダー養成枠を活用した入試を実施し、優秀な学生を確保した。 ・公益財団法人山田進太郎D&I財団と連携協定を締結し、「Girls Meet STEM」（中高生女子を対象に、STEM（科学・技術・工学・数学）分野で働く社会人や学生、研究・開発現場に触れることで、自身の関心や将来像を見つける機会を提供するプログラム）を実施している。令和7年度は研究室訪問ツアーを開催し、定員20名に対して23名の応募があった。保護者を含めると参加者は約50名にのぼり、女子中学生のみならず保護者に対しても本校の魅力をアピールする良い機会となった。 ・女子小・中学生の理工系分野への興味・関心の向上を目的として、実験講座を3件実施した（9月：水素フォーラムでのポスター発表、12月：イオンモール大和郡山（定員60名に対し約70名が受講）、2月：ゆめタウン佐賀）。 ・女子学生等からの要望を踏まえ、「学生用女子更衣室への扇風機の設置」および「電子制御工学科・専攻科棟女子トイレへのウォシュレットの設置」を行い、教育環境の改善を図った。 社会人学生確保に向けた取組 ・国立大学法人奈良国立大学機構奈良カレッジズ連携推進センターと連携し、社会人を対象とした取組を実施した。具体的には、①「きらら かセミナー」として、リーダーに求められる資質や意思決定における思考プロセスを学ぶ公開講座「リーダーシップと意思決定」（全4講座）を実施した。あわせて、②文部科学省「リカレント教育エコシステム構築支援事業」の一環である「3D-Digitalものづくり実践講座―2025」において、本校教員が講師を務め、対面実施および双方向同時配信（演習を含む）ならびにデモンストレーション（実習）を行い、7機関から9名が参加した。 留学生確保に向けた取組 ・国立高等専門学校機構が実施している第3学年編入学試験（外国人対象）の入学案内・募集要項に本校の紹介等を掲載した。 ・令和8年度は、第3学年から第5学年に、国費留学生（モンゴル、インドネシア）、マレーシア政府派遣留学生、タイ政府奨学金留学生を合わせて8名受入れている。	・日本人学生と外国人留学生が日常的に交流できる国際寮の拡充については計画を見送ることとなり、新たな留学生確保に向けた取組を模索している。

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
昨年度から高専STEAM教育拠点校として「デジタルART教育を核とした異分野融合による分野横断型能力育成の実践と展開」に取り組んでいる。この取り組みでは、早期STEAM教育実践校である鈴鹿高専との情報交換や小中高専連携による科学教室などを実施している。支援期間中も、情報技術を含めたSTEAM教育を実践し、全国の高専へ展開することを目指す。また、本校は国内外の多くの大学等との交流・連携協定を締結している。 令和7年度から開始する奈良先端大との「高専専攻科-大学院連携プログラム」を活用して、システム創成工学専攻と物質創成工学専攻の学生が奈良先端大の講義を受講したり、研究指導を受けたりする。それを本科生にも展開して、奈良先端大の協力が受けられる仕組を構築する計画がある。情報科学領域との連携によるPBL科目及び卒業研究を通じて研究活動を高度化するとともに、研究成果の社会実装や研究者を目指す学生のキャリアパス形成を推進する。	・令和6年にSTEAM教育に賛同する8高専（奈良高専・鈴鹿高専・石川高専・福井高専・豊田高専・鳥羽商船高専・舞鶴高専・和歌山高専）にて「第3ブロックSTEAM教育推進会議」を立ち上げた。令和7年度はブロック内高専への取り組みの展開とその連携スキームの構築に関する協議、全国高専への展開に関する協議等を行った。 ・東海・北陸・近畿地区国立高等専門学校の技術職員を対象としたSTEAM教育の実践講座を実施し、15名（10機関）が受講した。 ・令和7年度より奈良先端大との「高専専攻科-大学院連携プログラム」が開始され、令和7年度は3名（現在専攻科2年生）、令和8年度は4名（現在専攻科1年生）の学生が同プログラムを履修している。	

⑦ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和７年度に数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）認定を目指して準備中である。現在、在籍中の学生については、情報工学科の学生は正課内の必修科目で全員が認定プログラムを受講する予定である。他の４学科については、正課外の選択科目として開設する計画である。 さらに、改組後令和９年からは、全学生（200名）に対して必修科目として開設し、卒業生全員が認定プログラムを修了する計画である。	・令和7年度に現行のカリキュラムにおいて、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）への申請を行い、採択された。 ・令和9年度学科改組後の新学科（情報科学科、システムデザイン工学科、物質創成化学科）のカリキュラム編成を行い、令和9年度入学生からは、全学生に対して必修科目として数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）の対象科目を開設することとした。	

高等専門学校名	奈良工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

１.本事業対象となる情報系組織の状況

<合計>

年度				R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-																	
	事業計画に定める定員	編入学定員	人	-	-																	
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	-	-			-	-					-	-		-	-		
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		編入学定員	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		在籍者数(D)	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		編入学者数	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	-																
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-	-	-			-	-					-	-		-	-		
		就職者数	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進学者数	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		その他	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進路不明	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		授業科目の単位数	単位	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE

高等専門学校名	奈良工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

本事業対象となる学部等の個数	3

１.本事業対象となる情報系組織の状況

<内訳>

(1)

改組組織名	情報科学科

		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定	届出																	
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-																	
		就職者数	人	-	-																	
		進学者数	人	-	-																	
		その他	人	-	-																	
		進路不明	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

高等専門学校名	奈良工業高等専門学校

(2)

改組組織名	システムデザイン工学科

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定	届出																	
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-																	
		就職者数	人	-	-																	
		進学者数	人	-	-																	
		その他	人	-	-																	
		進路不明	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

高等専門学校名	奈良工業高等専門学校

（３）

改組組織名	物質創成化学科

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
年度				R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
改組状況				選定	届出																	
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-																	
		就職者数	人	-	-																	
		進学者数	人	-	-																	
		その他	人	-	-																	
		進路不明	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

高等専門学校名	奈良工業高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）

2.情報系組織の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	40	40																	
		入学者数（B）	人	42	41																	
		女子学生数	人	14	6																	
		社会人学生数	人	0	0																	
		留学生数	人	1	1																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.05	1.03																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	200	200																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	209	207																	
		編入学者数	人	0	2																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.05	1.04																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	42																		
		就職者数	人	25																		
		進学者数	人	14																		
		その他	人	3																		
		進路不明	人	0																		
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	5	5																	
		授業科目の単位数	単位	54	53																	

高等専門学校名	奈良工業高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）

３.高等専門学校全体の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	200	200																	
		入学者数（B）	人	204	201																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.02	1.01																	
	収容定員等	収容定員（C）	人	1,000	1,000																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数（D）	人	1,016	1,020																	
		編入学者数	人	5	3																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.02	1.02																	

４.外部資金の状況（全学）

項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
外部資金獲得額	千円	67,472																		

特記事項